新　刊

□**Lichens-Lecanorales 2, Parmeliaceae**（Flora of Australia vol. 55） xviii＋360 pp. 1994. ABRS (Australian Biological Resources Study), Canberra, Australia. ペーパーバック 48.75 Australian $, ハードカバー 65.00 Australian $.

本誌68巻5号で紹介したオーストラリアの地衣のマニュアル 'Lichens-Lecanorales 1' に続くもので，オーストラリアでは最も重要な Parmeliaceae（ウメノキゴケ科）がとり上げられ，この科に属する26属，386種について，前巻と同じスタイルで属，種の検索表，主な文献，シノニム，タイプ標本，記相文，分布，代表的な標本が記録され，巻末には各種のオーストラリアにおける分布図がある．Figs. 1-32および61-92の8葉のカラープレートも素晴らしいし，Figs. 33-60および93-106の白黒のプレートも鮮明で，図鑑としての機能も充分に果たしている．本書でとりあげられた26属のうち *Anzia*（アンチゴケ属），*Cetraria*（エイランタイ属），*Pannoparmelia*，*Pseudoephebe*（タカネゴケ属）の4属を除く22属については J. A. Elix が執筆している．Elix は本来有機化学が専攻であるが，1970年頃から地衣成分とともに地衣類とくに広義のウメノキゴケ属の分類に取組み，多数の新種を記載し，いくつかの新属の提唱にも関与してきているので，本書の著者としては最適任者である．オーストラリアのウメノキゴケ科のなかの最大の属は *Xanthoparmelia*（キクバゴケ属）で150種を含み，これに次ぐものとして *Parmpotrema*（ウメノキゴケ属，34種），*Paraparmelia*（オワリウメノキゴケ属，38種），*Neofuscelia*（25種），*Hypotrachyna*（ゴンゲンゴケ属，16種）などがある．なお，オーストラリア（ニュージーランドを含む）特産の属は *Chondropsis* だけである．

（黒川　逍）

□レッドデータブック近畿研究会（編著）：**近畿地方の保護上重要な植物** 121pp. 1995. 関西自然保護機構（〒558 大阪市住吉区杉本 3－3－138 大阪市立大学理学部動物社会学研究室気付．電話 06－605－2607．振替口座 00990－2－16679）．¥2,500（送料共）．

絶滅危惧植物の指定のとき問題になるのは，日本全国規模で指定できるものはもちろんあるけれど，地域による量的な差が著しい場合には，かえって指定する意義を軽く見られるおそれがあることである．とくに，このリストが環境影響評価の基礎資料として利用されるときには，地域の現状に合わない基準を押しつけ，評価を誤らせる心配がある．だから全国レベルの調査にばかり頼るのではなく，地域ごとにきめ細かな見直しが必要である．環境庁の全国調査に際して，それが地域の人達にも役立つようなやり方をとるようにとの意見が委員会で再三出されていたが，最近では不満足ながらそういう配慮がされるようになってきた．

本書はこれらの点をふまえて，近畿地方の若手研究者が，専門家アマチュアを問わず協力して行った調査結果の成果である．村田　源，瀬戸　剛両ベテランの永年の知識と経験の披露が，その軸となったとのことである．リストの対象となる植物の選定法はとくに目新しいものではないが，やはり地元だけあって生育環境を細かく仕分けして丹念な調査が行われ，貧栄養湿地，カヤ草地，里草地，岩場，水田など15区分について現状が述べられている．とくに何気なく開発されやすく，フロラ的にも軽視されがちな，人為の入った低地の現状について，意識的に情報を多く集めている．これに加えて府県別にまとめた状況が記述され，これらを総合した表が，巻末に示されている．保護を要する植物として，862種がリストアップされているが，この数はレッドデータブックの全国版のそれに匹敵する．他県で進行中の同様な調査を垣間見ても，似た傾向が認められる．ということは，地域ごとにこういう調査が行われれば，保護対象種の総数は非常に大きいことを意味する．

あとがきでは環境アセスメントについての編者らの意見，提言がなされており，この種の仕事にかかわる者の心構えとして有用である．現在行われている環境庁の調査に巻き込まれている各地の人達が，ただデータを提出するだけでなく，自分達の作ったデータを独自に生かすにはどうしたらよいかを考える参考になるだろう．きめ細かな保護対策や環境影響評価のためには，こういうもの